

医療費の財源構成（令和4年度）

皆さんが病院の窓口で支払う金額（自己負担額）は、平均的には、受けた医療にかかった費用（医療費）の約15%です。その他の部分は医療保険制度から支払われます。この医療保険でまかなわれる割合（約85%）を、「実効給付率」といいます。またこの約85%のうち、公費でまかなわれる部分が約32%、保険料でまかなわれる部分が約53%となっています。

自己負担額の割合は年齢によって異なりますが、法定給付率に加えて高額療養費制度等があることにより、後期高齢者（75歳以上）とそれ以外で分けた場合には、後期高齢者が約8%、それ以外が約19%となっています。

医療費 43.7兆円	医療給付費 37.3兆円 (実効給付率 85.2%)			自己負担額 6.5兆円 (14.8%)
	公費 14.1兆円 (32.2%)		保険料 23.2兆円 (53.0%)	
▼				
後期高齢者 以外 25.8兆円	医療給付費 20.8兆円 (実効給付率 80.7%)			自己負担額 5.0兆円 (19.3%)
	公費 5.0兆円 (19.5%)		保険料 15.8兆円 (61.2%)	
後期高齢者 18.0兆円	医療給付費 16.5兆円 (実効給付率 91.6%)			自己負担額 1.5兆円 (8.4%)
	公費 8.3兆円 (46.1%)	保険料 1.4兆円 (8.1%)	支援金 6.7兆円 (37.4%)	

公費 0.7兆円
保険料 6.1兆円

※ この資料における「医療給付費」は医療保険からの給付費であり、公費負担医療分や地方単独事業分は含んでいない。
また、「自己負担額」は医療保険に係る医療費から上記の「医療給付費」を除いたものとなっている。